

教室掲示で 雰囲気作りを



1 「先生、うちの教室では、まだ春の花が咲いているんだね」

3年生の担任をしていた時、給食の時間にある女の子が私にこう言いました。何のことだろうと思っていると、

「となりの1組ではアジサイが咲いたよ」

なるほど子どもはよく見えています。4月に作った後ろの掲示物が5月末になっても変化していないことを指摘されたのです。

2 「無理せず、遊び心をもって楽しんでやればいいのよ」

教材研究や会議、打ち合わせ、テストやプリントの丸付けやら…何もわからないまま忙しくて目がまわりそうな日々なのに、さらに掲示にまで気を配らなくてはならないなんて…。

毎日遅くまで学校に残って少し疲れてきた私に、ある女の先生が優しく教えてくれました。

「大きな掲示物はだいたい1年間変えなくていいから、後は気が向いた時に、これを掲示したら子どもがどんな反応をするかなあ、勉強になるかしら、と想像しながら遊び心をもつて楽しんでやればいいのよ」

教室掲示でも学級の雰囲気を作ることができます。教室に一歩足を踏み入れると、明るくてすっきりしていて、いいなと思う学級があるものです。

以下、教室掲示の工夫や注意点を挙げてみ

たいと思います。

○めあてや約束は1年間掲示できるように

まず、4月の最初に必ず決める学級のめあてやルールを掲示します。黒板の上や教室の側面の前方に掲示して、子どもたちに常に意識させます。守れない児童には言葉で注意するかわりにそつめあてを指さして、気付かせることもできますね。

これは1年間ずっと掲示しておきますので、大変でも模造紙に手作りがいいでしょう。印刷して拡大したものはすぐに色褪せますので気を付けたいです。子どもたち全員に1文字ずつ色をぬらせたり、はり絵をさせたりと工夫している学級もあります。

○季節や学習内容に合わせてバランスよく

季節感を出すことも大事です。このほりやクリスマスツリーがいつまでも飾ってあったら興ざめます。また、今やっている学習の内容、もしくは終わったばかりの学習の結果がわかるように掲示しましょう。6月になるのにまだ4月の観察カードがそのまま掲示されていると、やっぱりさみしいです。

○学年の先生に必ず相談を

若い先生はどうしても授業で勝負するのが難しい分、できるところで頑張ろうとします。以前、同じ学校の初任の先生が1年生の担任になり、張り切って掲示しすぎて自分のクラスばかりお祭りのようになってしまい、

それいけ!

新米先生

保護者から苦情がきたことがあります。やりたいことが見つかったら学年の先生に「こういうことをやりたいのですがいいですか」と相談してみましよう。承諾してくれたら堂々とできるし、もしダメな場合は事前に止めてくれます。些細なことが学年の先生とうまくやっていくコツでもあるのです。

特に1年生は、学校生活が初めてだということもあり、保護者の目が他の学級と比較しがちです。また、冒頭であげたアジサイの例のように、同じ学年の子どもたちの情報網はすごいです。「うちの組はこうしてるよ」「え、いいな。うちの組はこうだよ」と会話が飛び交うのですから。学年で大まかなところを描えておくと、保護者の方も安心します。

○こまやかな気配りは大切

子どもの顔写真を使う時には、細心の注意をはらいます。今の時代は、開かれた学校として、保護者だけでなく地域に公開するなど、不特定多数の人の目にとまるということも考えに入れてはなりません。

また、掲示する作品の誤字・脱字をしっかりと見て子どもに直させてから掲示したり、名前の間違いや、クラス全員分あるかをチェックしたりすることも、人権教育上、非常に大切なことなのです。

掲示物の破れや、画鋏が外れていることも気配りを。先生が意識して掲示物を扱っていると、子どもたちの意識も変わってきます。「先生、画鋏が外れていたから直してお

いたよ」子どもからこんな報告があったらチャンスです。大いにほめて、ほめて、ほめまくってあげられます。

○様々な教科をバランスよく

国語が好きで、気付いたら教室の子どもたちの作品の掲示は習字や詩、お手紙などの国語の授業で取り上げたものばかり…。そうならないためにも、様々な教科の作品をバランスよく取り上げることも大切です。

掲示することで友達作品を見合い、交流することが出来ます。友達作品をじっくり見ている子に、次の作品には友達作品の「良さ」を生かしてくれるかなと期待します。また、私は初任の頃に、「掲示する作品には、どんなに短くても担任からのコメントをつけるべきだ」と教わり、実行しています。

○努力の結果が視覚的にわかる掲示も

「がんばりの木」「ゆめたまご」など、子どもたちの努力の結果が視覚的にわかる工夫があると学級経営にも活用できます。木が葉っぱをつけたり、りんごをつけたり、たまごから鳥を飛ばしたり、風船が増えたり…頑張った分だけ成長して増えていく様子が嬉しいし、楽しいですね。また、行事ごとの取り組みに先生からのメッセージがあったら、子どもたちはなお嬉しいものです。

3 子どもの反応を楽しみながら

「あっ、変わった!」「増える!」

さらさらした目で掲示物を発見した子どもへの反応は見ている教師側も嬉しいのです。子どもたちに学校に行くことが、教室に入ることが楽しくて仕方がないと思ってもらえるように、教師も楽しみながら工夫することが大事です。子どもたちとの出会いを大切に、今年度も頑張ります。

